

災害時の情報共有で協定

県建設業協と上毛新聞社



協定を締結した青柳会長(左)と関口社長

災害発生時に現場の情報
を迅速に発信するため、県
建設業協会(前橋市元総社
町、青柳剛会長)と上毛新
聞社(同市古市町、関口雅
弘社長)は24日、災害時
における情報共有に関する協
定を結んだ。協会が運用す
る「災害情報共有システム」
を今後、同社も利用し、県
内に約8千人いる協会員が
現場からリアルタイムに届

ける写真や動画を報道に活
用する。災害時に記者やカ
メラマンが近づくことがで
きなかった箇所の状況など
も紙面や上毛新聞公式ニ
ュースサイト「#gunma」
を通じて発信可能で、県民
の安全確保につながる。
協会は2008年、全国
に先駆けてGPS携帯を使
った災害情報共有システム
を導入。本県が記録的大雪

に見舞われた14年、システ
ムに寄せられた除雪情報を
X(旧ツイッター)で発信し
たところ大きな反響があつ
たことから、情報発信面を
強化した新たなシステム
「ぐんけん見張るくん」を構
築した。同協会のXは現在、
1万1千件のフォロワーが
いるという。

同日の締結式で青柳会長
は「災害情報を事細かに発
信し、県民と共有すること
が大事。今回の協定により、
より掘り下げられた災害時
の情報発信につながる」と
期待。関口社長は「有事の
際は未確認の情報飛び交
う。そういった中で現場に
近い生きた情報は大きな財
産になる。新聞社として県
民の安全安心に資するべ
く、協定を活用したい」と
述べた。

協会は3月に群馬テレビ
とも同様の協定を結んでい
る。

群建協

上毛新聞と協定締結

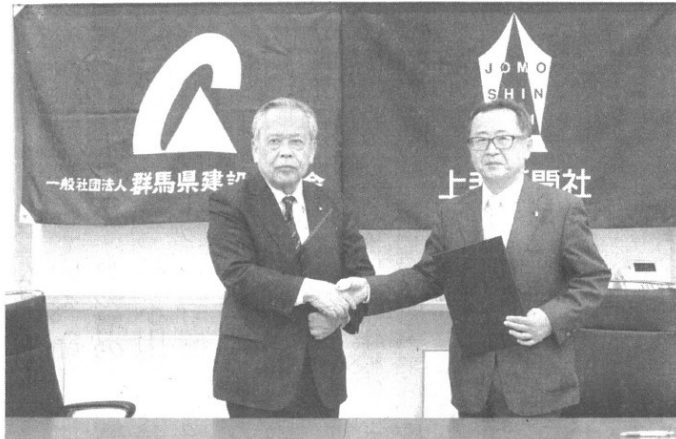
災害に関する情報発信

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は24日、上毛新聞社（関口雅弘代表取締役社長）と「災害に関する情報発信等に係る協定」の締結式を前橋市内の建設会館で行った。群建協の災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」によりリアルタイムで災害情報を共有することと、上毛新聞社の紙面やWebを通じて県民などの安全確保へ寄与する。

青柳会長は「地元の新聞社と協定を締結したことにより、より掘り下げられた災害時の情報発信が可能になるのではと期待している」と意義を強調している。

今回の締結により、上毛新聞社が協会員や行政と同レベルで「ぐんけん見張るくん」の画像や動画情報へアクセスすることが可能となる。得られた情報を上毛新聞社が活用し災害情報を発信することにも、平時には災害に関する啓発材料としても使用する。

災害に関する情報発信等に係る協定締結式



県民の安全に寄与

調。関口社長は「現場に近い生きた情報にアクセスできることは大きな財産となる。新聞社として、県民の安心・安全に資するべく、情報を提供していきたい」と期待を寄せた。

協建新聞社 災害時の情報発信で協定 組織力強化で地域を守る

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と上毛新聞社（前橋市、関口雅弘社長）は、災害時の情報共有で協定を結んだ。群馬建設協会と行政機関などが災害情報を共有し、X（旧ツイッター）で発信するシステム「ぐんケン見張るくん」の運用フローに上毛新聞社が参画。被災箇所の写真やリアルタイム動画を同社に提供し、新聞記事の掲載写真やウェブサイトの速報コーナーで活用してもらう。

群馬建設協会館（前橋市）で24日に「災害に関する情報発信等に係る協定締結式」の締結式を開き、青柳会長と関口社長が協定書を交わした。

青柳会長は能登半島地震を受け、災害を見据え情報収集、訓練、人・もの・資

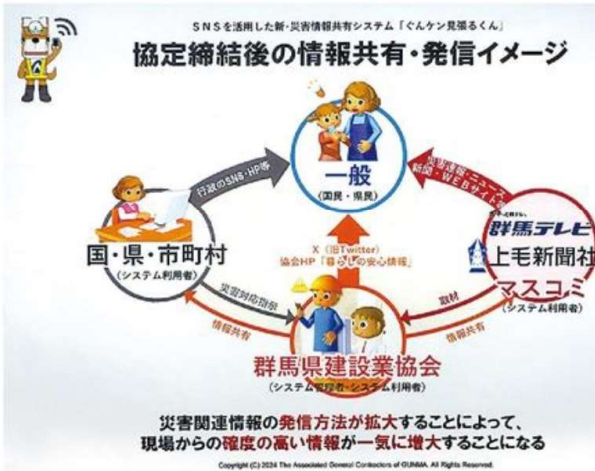
機材の充実などで地域を守る「災害対応組織力」の重要性を強調。被災現場の最前線に立つ地域建設業の災害情報を有効に発信することで「情報面から災害対応組織力を高めることが大切だ」とし、「掘り下げた情報発信で、さらに災害に強い群馬県を目指したい」と

災害に関する情報発信等に係る協定締結式



協定書を交換する青柳会長と関口社長

ぐんケン見張るくんの情報共有の枠組みに上毛新聞社が加わった



意気込んだ。

能登半島地震で群馬建協をはじめとする全国の建設関連団体が贈った見舞金や義援金を、石川県建設業協会（平櫻保会長）が被災地

の会員企業社員に贈呈したことにも言及。「こうした取り組みを報道することはとても有意義だ。（業界で働く人の）生活に関する情報の発信でも、地元メディアの強みを生かしてほしい」と呼び掛けた。

関口社長は「さまざまな情報が飛び交う災害時に、現場に近い建設業からの情報に接することは大きな力になる」と期待を寄せた。

群馬建協は、群馬テレビとも3月に同様の協定を結んでいる。

群馬県建設業協会(青柳剛会長)は24日、災害対応組織力の強化に向け、上毛新聞社(関口雅弘社長)と災害時の情報発信などについて協定を締結した。群馬建協が運営する「災害情報共有システム・ぐんけん見張るくん」に上毛新聞社が参画し、災害時に現場で従事している地域建設業者が取得した画像や動画を共有し、上毛新聞社の紙面やウェブサイトで発信する。災害関連情報の発信方法を拡大すること、現場からの確度の高い情報が一気に増大することになる。

群馬建協、上毛新聞社が協定

画像・動画を共有

同日、前橋市の群馬建設会館で行われた協定締結式で青柳会長は、災害対応組織力について基礎調査結果をまとめた冊子や、今回の協定に触れた上で、「能登地震を契機に、具体的な活動として展開した。この協定により、より掘



青柳会長(左)と関口社長

確度の高い災害情報発信へ

る。有事の際は、未確認の情報が飛び交うが、協会会員の現場に近い、生きた情報に接することができるのは非常に大きな力、財産になる」と話した。

災害情報共有システムは、災害時や降雪時などの際、復旧などの情報を、現場の作業員が画像や動画とともに送信し、協会員や行政が共有すると同時に、X(旧ツイッター)を通じて発信する。

今回の協定により、上毛新聞社は協会員や行政が共有しているものと同一レベルの画像や動画情報を取得できる。必要に応じて詳細な状況取材し、紙面やウェブサイトで情報発信する時には、動画や画像を掲載できる。平時には災害に関する啓発材料として活用する。

協会は3月4日にも、群馬テレビと同様の協定を締結している。